

上尾歴史散歩

271

市制施行55周年特別企画

上尾サイクル紀行 ⑦

J R上尾駅東口～愛宕

「上尾サイクルマップ」で訪ねる郷土の歴史



二賢堂跡の石碑(氷川嶽神社内)

今月号から上尾サイクルマップ東編をスタートする。JR上尾駅東口近くの氷川嶽神社に寄り、旧中山道の東側の通称アッピー通りを南下し上尾運動公園に至るコースである。6月に上尾停車場線(上尾駅東口～上尾市役所)に次いで、旧中山道の上尾小学校入口まで自転車道が整備されたので、旧中山道を通り愛宕神社を経て上尾運動公園へと走ることにする。

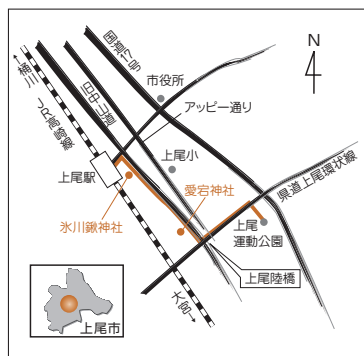
旧上尾宿の鎮守である氷川嶽神社の境内には、元禄8(1695)年奉納の分水鉢があり、正面に「上尾町」の文字を見ることが出来る。「上尾」の地名は中世の文書に「あけ」の記述があり、江戸時代以前から周辺一帯がそのように呼ばれていたことが分かる。ただ元禄年間の古地図には上尾村、上尾下村、上尾町とあり、上尾宿周辺を上尾町と呼ぶこともあったようだ。

また天明8(1788)年、

氷川嶽神社の境内に、江戸から来遊した学僧の雲室上人と上尾宿在住の俳人・教育者の山崎武平治碩茂が、菅原道真と朱文公の二人を祀る二賢堂を建てた。そこで開かれた「聚正義塾」には、近隣の村々から多くの青年が集まり学んでいた。現在、上尾商工会議所ではこの古事に倣って、上尾の商工業の後継者を育成する場を「聚正義塾」と名付け、10年間活動を続けている。

旧中山道のバス停は仲町、上尾原市新道、愛宕神社と続く。愛宕はもともと上尾宿の一部で下町と呼ばれていたが、住居表示の変更に伴い地名を変える際に、村で祀っていた愛宕神社から地名を取って愛宕となった。なお愛宕神社の本殿は、明治40年代に政府が行った神社合祀により、二ツ宮氷川神社の女体社が氷川嶽神社に合祀されたのを受け、空社となった社殿を利用したものである。

江戸時代の上尾宿の様子は、文化3(1806)年に完成した「中山道分間延絵図」によりうかがうことができる。ここに記された「一里塚」は現存しないが、絵図と現在の地図とを見比べると、現在の仲町と愛宕の境界付近に築かれ



ていたことが分かる。またこれとは別に、江戸時代当時の面影を残すものとして、かつて文化センター大ホール(旧上尾市役所)の襦袢に描かれていた「鶴・亀の松」がある。木の先端がそれぞれ鶴と亀に似ていることから名付けられた2本の松は、中山道を江戸から出発し、上尾宿に入る目印だったようだ。本物の松だけでなく襦袢も姿を消したことは少しさびしい気持ちがある。

次号は愛宕から原市までとしたい。(ぐるっとサイクルリング同好会・川島一郎)



中山道分間延絵図(上尾宿中心の街並み)



アッピーを探そう!

右のアッピーが登場するのは? ページ



【賞品】 正解者の中から抽選で5人に、粗品を差し上げます。

【応募方法】 はがきかメールにクイズの答え、住所、氏名、年齢、電話番号、『広報あげお』の感想を記入して、10月21日(月)まで(必着)に上尾市広報課「わくわくクイズ係」へ。

あて先: 〒362-8501本町3-1-1
メールアドレス: s55000@city.ageo.lg.jp

【発表】 賞品の発送をもって発表に代えさせていただきます。 ※正解は11月号のこのコーナーで。前号の答えは「9」でした。ご応募ありがとうございました(応募者48人)。

市の人口・世帯
(平成25年9月1日現在)

22万7,947人

男/11万3,588人

女/11万4,359人

※前月より59人減。

9万5,090世帯

◆『広報あげお』は、各支所・出張所、JR上尾駅・北上尾駅の他、市内の各公共施設、金融機関などに置いてあり、自由に持ち帰れます。
◆環境保全のため、市内の公共施設へのお出掛けは市内循環バス「ぐるっとくん」を利用してください。



本紙は、再生紙を使用しております。